

豊島区外傷サーベイランス委員会会議録

会議体の名称	第28回（令和7年度）外傷サーベイランス委員会
事務局（担当課）	総務部 危機管理担当課
開催日時	2026年 1月16日（金）10時00分～11時00分
開催場所	本庁舎5階 指令室
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 不慮の事故等による死亡・けがの状況 2 熱中症による死亡者数・救急搬送状況 3 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 水タバコ（シーシャ）を原因とする一酸化炭素中毒による救急搬送状況
出席者	<ol style="list-style-type: none"> 1 豊島区危機管理監 岡谷 晃治 【委員長】 2 池袋警察署 生活安全課長 上原 直樹 3 豊島消防署 災害対策調整担当課長： 警防課救急技術担当係長 中村英一郎（欠席） 4 池袋保健所長 寺西 新 5 高齢者福祉課長 今井 有里 6 豊島区危機管理担当課長 澤田 健司 【事務局】
配布資料	<p>資料1 不慮の事故等による死亡・けがの状況 (年間活動レポートから抜粋)</p> <p>資料2-1 豊島区における熱中症による死亡者数・救急搬送者数</p> <p>資料2-2 発生場所・年代別の熱中症による救急搬送者数 (令和6年)</p> <p>資料3 水タバコ（シーシャ）を原因とする一酸化炭素中毒による救急搬送状況</p> <p>参考資料1 令和6年度豊島区外傷サーベイランス委員会委員名簿</p> <p>参考資料2 セーフコミュニティ概要</p>

○議題1 不慮の事故等による死亡・けがの状況

1 報告事項

資料1を基に説明

2 委員意見

- ・トレンドはほぼ変わっていない。
- ・受傷件数が増えているが、警察も消防も受電は増加傾向。受電増加の影響によるものか。
⇒基本的に医療機関に到着して診断名がついた案件についてのデータを抽出している。したがって、受傷の件数はやはり増加している。
- ・警察・消防の受電数も、受傷件数も増えているため、分析していく必要がある。
- ・緊急ではないときは、救急相談センター（#7119）や警察相談（#9110）を活用するとよい。
- ・高齢者からは、熱中症で外出を控えて、活動量が減り、体力が落ちてしまったという声がある。
- ・自殺者のデータには外国籍の人数も含まれているか。

3 今後の課題

- ・救急相談センター（#7119）や警察相談（#9110）の利用を周知
- ・高齢者は、熱中症による外出自粛によるフレイル予防が必要
- ・日本に住む外国籍の自殺者数について検証不足、今後の検証の必要性も含めて検討

○議題2 熱中症による死亡者数・救急搬送状況

1 報告事項

資料2を基に説明

2 委員意見

- ・熱中所による搬送数は、若い人が多い。高齢者の場合は、死亡例が見られる。
- ・特に75歳以上の一人暮らしを対象に、民生委員の方に訪問してもらい、見守りを強化している。
- ・暑熱順化もあって、7月などの早い時期が最も要注意である。
- ・訪問や声かけの時期を早められるよう、調整中である。
- ・高齢者は厚着をしていることが多いのではないかと。就寝時は薄手のものを1枚で良い。
- ・就寝時にエアコンを消すという習慣も、まだ見られる。
- ・訪問時には室温は測っているのか。
⇒今年度の訪問時に、室内温度計を配付した。
- ・高齢者の場合、エアコンが古いことや壊れていることもある。また、使い方を誤っている場合もある。本人の認知機能の状況も踏まえて、エアコンの使用を促す必要がある。
- ・高齢者の死亡は、夏だけではなく、冬も多いのではないかと。
⇒冬は血圧が上昇し、死亡者数が多い時期であると考えられる。

3 今後の課題

- ・熱中症予防の訪問時期を早める必要がある。

○議題3 その他（1）水タバコ（シーシャ）を原因とする一酸化炭素中毒による救急搬送状況

1 報告事項

- ・前年度の委員長より、ご提案をいただいたテーマである。
- ・豊島区内で、たばこによるCO中毒を原因とする救急搬送の事例は過去5年間で1件のみ。
- ・また、その1件の発生場所は「一般道路」であった。

2 委員意見

- ・原宿・渋谷など、若者が集まるエリアを管轄する第3消防方面本部では、一酸化炭素中毒の報告が増えているという。一方、池袋周辺では同じ状況にはない。